

信玄公生誕500年を機に新名称に変更 ～アフターコロナを見据え新たな誘客戦略～

湯村温泉協同組合

湯村温泉協同組合（笹本健次理事長 組合員10社）は、信玄公生誕500年にちなみ、今年5月17日に温泉街の名称を「信玄の湯 湯村温泉」に変更することを発表した。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により厳しい経営を強いられている観光業界だが、湯村温泉も同じく、昨年春は多くの宿泊施設が休業、今春は改善傾向にあるものの例年の3～5割程度の来客で、経営状況が悪化していた。そこで、アフターコロナを視野に、地域が持つ歴史や魅力を前面に打ち出して新たな観光客の呼び込みにつなげようと組合としてプロジェクトを立上げた。

「湯村温泉」は1200年の歴史を持ち、戦国

武将武田信玄が頻繁に湯治に訪れていたということが史実として残っている。また、井伏



鱒二、太宰治、松本清張ら多くの作家も滞在しただけでなく、将棋の竜王戦等が開催されることでも知られている。毎分1トン、平均温度約40℃の弱アルカリ性泉が湧出し、源泉かけ流しが楽しめる魅力的な温泉である。

組合では、新たに地域の魅力を伝えるパンフレットを作成するとともに、湯村温泉の泉質の良さを体感してもらうために温泉水を活用した化粧水「信玄公ゆかりの湖衣姫み・すと」と「温泉水晶水菓子」の新商品の開発にも取り組んだ。この水菓子は、宿泊時のデザートや施設内飲食店で提供していく予定となっている。

笹本理事長は「コロナにより宿泊客のマインドが変わった。湯村温泉は、首都圏から近く、豊かな自然、長い歴史、良質な湯、美味しい食材と魅力も多い。中部横断道の全面開通やリニア中央新幹線等で新たな誘客も期待できることから、アフターコロナを見据え地域資源を積極的に活用し湯村温泉の活性化にスタートダッシュを切りたい」と抱負を述べてくれた。

